

数学

1 <全体分析>

試験時間 180 分 解答問題数 5 題

解答形式

全問記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

例年同様、一筋縄ではいかない問題ばかりであった。

方針が立ったあとの処理が多い問題も散見された。

その他トピックス

小問に分かれていない問題が3題もあった (昨年は1題、一昨年は0題)。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	積分	数学Ⅲ	定積分の整数部分を求める問題。 定積分を評価する手法はいろいろあるが、いずれにせよ、見通しをもってもらいたい。	やや難
2	整数	数学A	与えられた方程式を満たす整数を求める問題。 式の特徴を捉えることで、適宜処理量を減らしたい。	標準
3	確率 複素数平面	数学A 数学B 数学Ⅲ	複素数を題材にした確率の問題。複素数を用いて書かれた条件の意味をくみ取れば、あとは確率のよくあるタイプの問題に帰着される。	標準
4	積分	数学Ⅲ	2つの立体図形の共通部分の体積を求める問題。 威圧的な設定に惑わされず、セオリーどおり断面に着目すればよい。場合分けが3通りあり、そのあとの処理も大変である。	やや難
5	空間座標	数学B	(1)は空間内の2直線から等距離にある点の集合を考える問題。「正射影ベクトル」を使えるようにしておきたい。 (2)は空間内の4直線に接する球を求める問題。(1)と同じ操作を2回繰り返し、3元1次連立方程式を8回解くことになる。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

典型的な問題を確実に解けるようにしたら、難しい問題に挑戦しよう。わからない問題があってもすぐ解答を見るのではなく、粘り強く考える習慣を身につけたい。また、解答を見た場合でも、その内容を理解して満足するのではなく、後日その問題を最後まで解き切ってもらいたい。